1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200152		
法人名	社会福祉法人浩福会		
事業所名	グループホーム玉うさぎ		
所在地	香川県丸亀市川西町北998-1		
自己評価作成日	令和 6年 11月 15日	評価結果市町受理日	令和7年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋の建物にOMソーラーを利用し一年中快適に過ごすことが出来ている。同敷地内に「桃山保育所」もあり、毎日子供達のにぎやかな声が聞こえてきております。合同で行事を行ったり一緒に楽しい時間を過ごしております。ホームの横では野菜を作り、利用者子供達で収穫祭を開催しております。職員の育成にも力を入れており、積極的に研修に参加し、個々のスキルアップを目指しております。同系列の施設での介護教室や合同行事の「桃祭り」「餅つき」にも参加しております。他にソウエルクラブに参加し、福祉厚生の実現を図っております。

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和6年12月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

法人は「保育と介護で地域を支える」を使命としている。事業所の管理者は自らの経験を通じて、認知症の理解を深めるために、利用者や家族等や地域社会を巻き込んで行きたいと意欲を示している。職員も日頃から、知識・技能の取得を目指し、利用者主体の介護を実践している。食べることは生きる力に通じ、利用者自らが食事を口に運び、自ら持っている力を活かせるような生活を送っている。職員は安全確保のため見守り、必要に応じた声掛けや介護を行っている。看護師配置して医療との連携を図り、利用者や家族の安心を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場に理念をかかげておりそれを基に介護している	事業所の利用者の暮らしの理念として「笑顔・安らぎ・ふれあい」を目立つ場所に掲示している。創業以来の理念で職員が朝夕の引継時に共有して実践に当たられている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域連携で防災訓練予定であったが、現在は感染症の拡大状況により、一部ひかえている	地域行事への参加を積極的に行いたいですが、感染症の影響もあり一部自粛しており、参加の是非を行事ごと判断して実施されている。敷地内に地域の防災倉庫や緊急時に使用のAEDを備え、地域と共に共同使用を図っている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の芋煮会参加や太鼓台、ボランティア訪問により理解がされてきていると思うが、現在は感染症の拡大状況により、地域との交流は一部ひかえている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進協議会を開催(2ヶ月毎)。利用者・家族・近所の方・丸亀市職員・施設職員等が参加。サービス状況を伝えたり、質問や意見交換等行う。施設内で実施するので、利用者の日頃の様も見て貰える	運営推進会議は2カ月毎に開催されている。事業所の実情を参加者に理解していただき、一緒になって考える機会となっている。利用者をまじかに見ながらの会議となっている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、常時、相談・助言が得られる関係を築いている	運営推進会議では市職員の参加があり、行政や制度など周知事項も伝えられている。会議にて事業所の実情の共有や相談助言が行われている。事業所から相談などに訪問したり、電話での問い合わせをしたりの関係も築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の意識統一を図り、身体拘束について勉強している。鍵を使用しない見守りを行っている	職員は身体拘束適正委員会を定期的を開催し、マニュアルの見直しや事例研究がなされている。他の職員にも職員会議等を通じて周知されている。利用者に拘束はなく、センサー機器や見守りにて対応がなされている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修をしたり、介助時、入浴時等に身体の観察を心がけている。常に心理的、精神的に虐待がないように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修していないが、資料はいつでも見られるようにしている。今後、勉強会を利用して学びたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、家族の意見を聞き確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はコロナウイルス流行の為行っていないが、玄関に意見箱を置いている。また、面会時や電話連絡時に現状の報告や家族の意見を聞き、職員間で話し合い実践するようにしている。運営推進会議で報告している	日頃から、家族には利用者の様子に変化がある度に細かく伝え、その際に意見や要望も聞かれている。聞いたことは職員間で話し合い、結果は家族や運営推進会議に報告されている。必要に応じて、家族等にアンケートも実施されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等で各自の意見を聞き上司に報告するようにしている	管理者が朝夕の引継時や職員会議で話された職員の意見を上司に報告、相談がなされている。ユニット主任が職員の意見をまとめ、管理者に報告することもある	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価のアンケートや、キャリアアップ手帳を用いて個々の状況把握に努めている。アンケートの内容や解答を回覧している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように取り組み、勉強会等で取り上げ研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と意見交換を行い、自施設に持ち帰り活かすようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との信頼関係が築けるように話しを聞き個別に関わる事を大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みの際、施設での利用者やかかわる職員の様子を見てもらう。家族の話聞き、不安や疲労感、孤独感等を把握し、共有する。不安が軽減できるようゆっくと説明する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分に話し合いを行い、希望や思いを組み取り、ケアに活かすようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りを行ったり、後片付けや洗濯物たたみを行い役割を持った生活を送れるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	玄関ホールで面会し、顔を見てもらったり、お話ししたりして頂いている。また、近況を職員から随時お伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員付き添いでの外出は行っているが、面会以外での交流はコロナウイルスの為、外出はひかえている	地元の祭りではバザーに招待されるが、感染症のリスクを考え外出できにくい面がある。感染症対策を実施しながら地元の獅子舞慰問を受入れるなど関係性の支援に努められている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常時側について話し相手になったり、利用者同士の話しにも入っていくようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談等を受け、協力するようになっている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いを組み取り、本人の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な方は表情や言動等から思いを組み取れるよう努力している	利用者に見守りと寄り添いを欠かさず実施していることで、本人の言動や体調の変化を把握している。また、何かあると家族等に連絡を入れ、家族の思いも聞き意向の把握に努められている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの中で、昔はどうしていた等、本人や家族に今までの暮らし方を聞いて把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、職員間で情報を共有し、個々の状況の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会等で職員全員から意見を聞き状況に合った計画を作成している	本人や家族等の意向を参考に職員は月1回のカンファレンスを実施している。結果を主任が介護支援専門員に伝え計画に反映されている。急変がなければ6カ月に1回は見直され、ケアマネから家族に説明、同意がなされ日々のケアに繋がっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあった時や工夫など、その場で話し合ったり、勉強会で検討したりしてサービスに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスで外出は一部行っていないが、・書初め・初詣・散髪等、その時により、個々に希望される事を見極めながら、施設内で対応している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、馴染みの方と交流している。また、桃山保育所の発表会見学やハロウィン仮装パーティー等にも参加し交流を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医を決め、往診や受診を行っている	看護師が受診や往診に付添い、医療機関や家族との連絡を一括しており、24時間早急に対応できる体制が整えられている。毎月利用者の医療に関する事柄を手紙に書き報告されている。かかりつけ医との連絡も円滑に進められている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態を常に観察し、変化があれば看護師に報告、必要であれば受診している。また不在時には連絡を取り、看護師の指示にて適切な対応が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を見に行き、医師や看護師に状況を聞いたり、ソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換をし良い関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族への説明をすると共に職員全体で方針を共有できるように勉強会を行って学んでいる	入居時に本人・家族等に事業所の方針を伝え同意書も作成されている。入居者が重度化や終末期となった際に、本人や家族が望めば医療機関の医師の協力による看取りとなり、出来るだけ希望に沿った支援がなされている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備えすぐに連絡が取れるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成。防災訓練を定期的に行う(4回/年)。地震、火災、水害等の訓練を計画し、消防署と連携しながら、利用者、職員一緒に行う	マニュアルの作成や見直しは定期的実施されており、避難訓練も保育所と合同で年3回は行われている。消防署や地域の防災関係者に問い合わせ、災害時の対応も検討がなされている。備蓄品や防災用品も保管、管理も備えられており、敷地内に地域の防災倉庫もある	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に声掛けや対応に注意し行動する様になっている	職員は一人ひとりの性格を熟知して、個々に配慮して接せられている。本人が自主的に行動するときには安全に配慮しながらそっと見守りがなされている。トイレでの排泄や入浴には特にプライバシーに配慮して行動するよう心掛けられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せるように対応し日々の生活を楽しく送って頂けるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に提案はするが本人の希望を重視し本人のしたいように経過して頂く		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選べる場合は自分で選んで頂いたり、外出や行事の時に化粧をしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳などを手伝ってもらっている。メニューもキッチン横に書いており、聞かれると説明している	誤嚥に配慮して2タイプの形態で食事を提供している。食事は利用者のやる気を引き出す源と考え、自力摂取すること、その間職員は適度の間隔で見守りを行うことに配慮がなされている。食事の前後は利用者と職員はエプロンをつけて、準備・配膳・片づけなどが一緒に行われている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせ水分補給して頂いたり、利用者が飲みやすい工夫しながら毎日水分量をチェックしている。食事がすすまない時は、時間をおいて提供している、主治医とも報告・相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師より口腔ケアの指導を受け研修も実施している。毎食後に口腔ケアを実施(出来ない所は職員が手伝う)。夕食後は入れ歯洗浄剤を使用している。必要な人には歯科往診を利用して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるようにしている。日中はできるだけトイレにて排泄していただけるようにしている。職員の声かけは、自尊心に配慮するよう気を付けている	立位の難しい方も日中は介助によりトイレでの排泄を促している。排泄パターンを把握して出来るだけ自力でできるよう支援している。夜間は睡眠優先であるが、トイレでの排泄を希望する方にはセンサー反応で、職員が対応して見守りや介助している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い管理している。水分を取ってもらったり、食物繊維の多い食材を使用したり、適度な運動を毎日行って頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、曜日は決めているが(2回/週)、本人の希望により変えるようにしている。お湯の温度や浴槽につかる時間も、体調を考慮しながら、個々に合わせている	浴槽は身体状況により個浴から座位浴まで対応している。日時を固定せずに出来るだけ利用者の希望や体調などに沿って、週2回は入浴できている。日常生活では朝夜、更衣と洗濯をして身辺を清潔で綺麗にすることが大切にされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや体操等に参加して体を動かしてもらい夜ぐっすり眠れるよう工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬の用途や副作用を書いた紙を入れておき、職員がすぐ確認できるようにしている。症状に変化がある時はすぐ看護師に連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持ち過ごせるように支援している。特技を活かした作業を行ってもらったり、外出等の気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの流行の為、一部ひかえているが、職員付き添いで外出も行っている	天気の良い日は日光浴や近所を散歩して過ごされている。外出は感染症の不安があるので、多少控えめとなっている。利用者は出かけた希望を持っているが、不安をもつ家族の声などもあり、事業所として苦慮している現状にある	感染症対策と日常的な生活支援のバランスを常に意識しながら、それぞれの利用者の希望やコロナ禍前の当たり前の生活とは何であったかなど家族等も巻き込みながら、本人の望む暮らしの支援が更に深まることに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつや買物などは施設が立替払いをして、本人が安心して買えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば自分で電話して頂いたり、職員がかけ繋ぐようにしている。家族に誕生カードなど作って渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	OMソーラーシステムを使用し温度調整を行っている。毎月、季節に合わせた飾り付けを行ったり、その月のカレンダーの色ぬりを利用者に行ってもらっている	OMソーラーシステムを使用して、年間25度に温度調整されている。静かな環境にあり、隣は保育所で子供の声が聞こえる。リビングダイニングは天井が高く自然光を取り入れて、ゆったりくつろげる空間となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが好きな場所でくつろいで過ごしている。ソファで休まれる方も多い。和室で横になられる利用者もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持って来て頂き、居室に自分の部屋を再現していただき、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている	本人や家族等の意向により、氏名の表示を決めている。鍵はなく、物音でも職員が駆け付けられる。ベッドと半間の押入れは備え付けられ、使い慣れた家具や私物を搬入して自分の居室となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂等、分かりやすいように表札や絵を書いている。タンスには、入っている物が分かるように名前を書いている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場に理念をかかげておりそれを基に介護している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域連携で防災訓練予定であったが、現在は感染症の拡大状況により、一部ひかえている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の芋煮会参加や太鼓台、ボランティア訪問により理解がされてきていると思うが、現在は感染症の拡大状況により、地域との交流は一部ひかえている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進協議会を開催(2ヶ月毎)。利用者・家族・近所の方・丸亀市職員・施設職員等が参加。サービス状況を伝えたり、質問や意見交換等行う。施設内で実施するので、利用者の日頃の様も見て貰える
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、常時、相談・助言が得られる関係を築いている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の意識統一を図り、身体拘束について勉強している。鍵を使用しない見守りを行っている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修をしたり、介助時、入浴時等に身体観察を心がけている。常に心理的、精神的に虐待がないように心がけている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修していないが、資料はいつでも見られるようにしている。今後、勉強会を利用して学びたい
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、家族の意見を聞き確認している
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はコロナウイルス流行の為行っていないが、玄関に意見箱を置いている。また、面会時や電話連絡時に現状の報告や家族の意見を聞き、職員間で話し合い実践するようにしている。運営推進会議で報告している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会等で各自の意見を聞き上司に報告するようにしている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価のアンケートや、キャリアアップ手帳を用いて個々の状況把握に努めている。アンケートの内容や解答を回覧している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるように取り組み、勉強会等で取り上げ研修を行っている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と意見交換を行い、自施設に持ち帰り活かすようにしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との信頼関係が築けるように話しを聞き個別に関わる事を大切にしている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みの際、施設での利用者やかかわる職員の様子を見てもらう。家族の話聞き、不安や疲労感、孤独感等を把握し、共有する。不安が軽減できるようゆっくりと説明する
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分に話し合いを行い、希望や思いを組み取り、ケアに活かすようにしている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事作りを行ったり、後片付けや洗濯物たたみを行い役割を持った生活を送れるようにしている
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	玄関ホールで面会し、顔を見てもらったり、お話ししたりして頂いている。また、近況を職員から随時お伝えしている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員付き添いでの外出は行っているが、面会以外での交流はコロナウイルスの為、外出はひかえている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常時側について話し相手になったり、利用者同士の話しにも入っていくようにしている
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談等を受け、協力するようになっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思いを組み取り、本人の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な方は表情や言動等から思いを組み取れるよう努力している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの中で、昔はどうしていた等、本人や家族に今までの暮らし方を聞いて把握に努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、職員間で情報を共有し、個々の状況の把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会等で職員全員から意見を聞き状況に合った計画を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあった時や工夫など、その場で話し合ったり、勉強会で検討したりしてサービスに活かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスで外出は一部行っていないが、書初め・初詣・散髪等、その時により、個々に希望される事を見極めながら、施設内で対応している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、馴染みの方と交流している。また、桃山保育所の発表会見学やハロウィーン仮装パーティー等にも参加し交流を支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医を決め、往診や受診を行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態を常に観察し、変化があれば看護師に報告、必要であれば受診している。また不在時には連絡を取り、看護師の指示にて適切な対応が出来るようにしている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を見に行き、医師や看護師に状況を聞いたり、ソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換をし良い関係作りをしている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族への説明をすると共に職員全体で方針を共有できるように勉強会を行って学んでいる
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備えすぐに連絡が取れるようにしている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成。防災訓練を定期的に行う(4回/年)。地震、火災、水害等の訓練を計画し、消防署と連携しながら、利用者、職員一緒に行う

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に声掛けや対応に注意し行動する様にしている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せるように対応し日々の生活を楽しく送って頂けるよう支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に提案はするが本人の希望を重視し本人のしたいように過ごして頂く
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選べる場合は自分で選んで頂いたり、外出や行事の時に化粧をしてもらっている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳などを手伝ってもらっている。メニューもキッチン横に書いており、聞かれると説明している
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせ水分補給して頂いたり、利用者が飲みやすいよう工夫しながら毎日水分量をチェックしている。食事がすすまない時は、時間をおいて提供している、主治医とも報告・相談している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師より口腔ケアの指導を受け研修も実施している。毎食後に口腔ケアを実施(出来ない所は職員が手伝う)。夕食後は入れ歯洗浄剤を使用している。必要な人には歯科往診を利用して頂いている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるようにしている。日中はできるだけトイレにて排泄していただけるようにしている。職員の声かけは、自尊心に配慮するよう気を付けている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い管理している。水分を取ってもらったり、食物繊維の多い食材を使用したり、適度な運動を毎日行って頂いている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、曜日は決めているが(2回/週)、本人の希望により変えるようにしている。お湯の温度や浴槽につかる時間も、体調を考慮しながら、個々に合わせている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや体操等に参加して体を動かしてもらい夜ぐっすり眠れるよう工夫している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬の用途や副作用を書いた紙を入れておき、職員がすぐ確認できるようにしている。症状に変化がある時はすぐ看護師に連絡している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持ち過ごせるように支援している。特技を活かした作業を行ってもらったり、外出等の気分転換を図っている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの流行の為、一部ひかえているが、職員付き添いで外出も行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつや買物などは施設が立替払いをして、本人が安心して買えるようにしている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば自分で電話して頂いたり、職員がかけ繋ぐようにしている。家族に誕生カードなど作って渡している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	OMソーラーシステムを使用し温度調整を行っている。毎月、季節に合わせた飾り付けを行ったり、その月のカレンダーの色ぬりを利用者に行ってもらっている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが好きな場所でくつろいで過ごしている。ソファで休まれる方も多し。和室で横になれる利用者もいる
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持って来て頂き、居室に自分の部屋を再現していただき、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂等、分かりやすいように表札や絵を書いている。タンスには、入っている物が分かるように名前を書いている